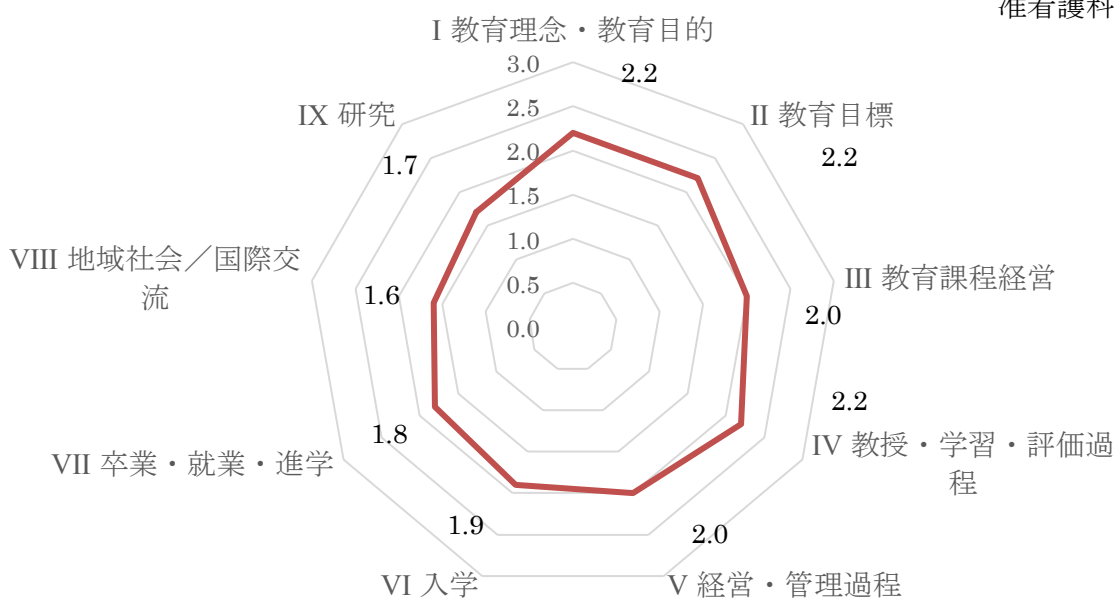


令和2年度 自己点検・自己評価

准看護科



令和2年度 評価の概要と今後の課題

I. 教育理念・教育目的

昨年度、教育理念・教育目的について、①教育上の特徴や学生の指針としてやや具体性に欠けている②教育方法や教育環境について、具体的に述べていることができていないと分析した。その結果を基に、新カリキュラム改正に向けて現在見直しを行っている。

II. 教育目標

教育目標は、目標設定の意図を記述したものが無い。卒業生の特性と各学年の到達目標は示されており、教育活動のゴールが読み取れるものとなっている。課題に挙げていた継続教育の考え方は2022年度のカリキュラム改正に於いてその考え方を示すように検討中である。

III. 教育課程経営

指定規則、別表4に基づき、科目は法を遵守できている。単元の時間数も適切である。科目と単元の構成および各ねらいについては生徒便覧に記載し、入学時オリエンテーションで説明を行っている。科目、単元の構成と時間数および科目履修の方法とその評価基準については、2022年度のカリキュラム改正に向けて検討中である。

令和2年度の教育・研究活動の実施については、以下の通りである。

教育・研究活動	
看護師等養成施設における実習補完事業 (シミュレーション教育)	2名参加
厚生労働省看護職員確保対策特別事業 (カリキュラム改正について)	2名参加
准看護師教育実施施設部会 (カリキュラム改正に向けて)	1名参加
県医師会研修会(学内実習について)	2名参加
日総研セミナー(教材づくりと教材化)	1名参加
照林社 看護職員Webセミナー	教員全員受講
医学書院 カリキュラム編成準備セミナー	教員全員受講

令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策に追われた1年であった。実習指導者会議も中止を余儀なくされたが、実習施設と連絡・調整を行いながら、可能な限り臨地実習に向けての体制を整えた。臨地実習の代替実習として、学内実習の計画立案、実施と早急に対応した。臨地における実習は約7割の実施であった。

臨地実習においては、実習開始時に、各実習施設と契約書を交わし、生徒からも各実習施設へ

誓約書を提出している。実習指導者会において、実習目的、目標、方法等について説明し、相互の共通認識のもと指導する体制をとっている。生徒の事故発生時には、報告ルートを作成し対応している。生徒の安全対策として、総合保障制度、学生用 Will 保険に加入している。令和2年度の対応件数は0件であった。今後の課題としては業務の整備、効率化を行い、教員間で指導案の検討や授業参観などの機会を設け相互研鑽のシステムをつくることである。

IV. 教授・学習・評価過程

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、授業形態はグループワークなどは避け、演習も人数を減らすなど感染対策を講じながら実施した。ICTを活用したりリモート授業も取り入れカリキュラムが円滑に行えるよう尽力した。授業内容の重複については、配慮はしているが可視化できておらず明確とは言えない。2022年度のカリキュラム改正に向けて検討中である。目標評価については、授業評価、実習評価、卒業時アンケートを実施している。授業評価は各教員が自己の授業を振り返り授業改善に向けて取り組んでいる。今後の課題として、授業評価の実施は、教務と一部の講師のみであるため、全科目のカリキュラムの評価を基に目標評価ができるように整備していく。実習評価は、実習指導者会で結果を公表しており、評価結果の把握は出来ている。卒業時アンケートは、集計結果を教員全員に周知しているが、今年度はその結果を分析できていない。今後、分析を加え、教育活動の評価活動につなげていく。昨年度の課題であった基礎看護技術のシラバスについて、内容を追加した。今後も生徒の学習への動機づけとなるようなシラバスとなるようにしていきたい。

V. 経営・管理過程

令和2年度は、新型コロナウイルスの影響により大幅な会議の中止を余儀なくされた。実施した会議は、運営会議（3回：うち1回は紙面会議）教務会議（1回/月）、進級判定会議（3回）、入学試験委員会（5回）である。講師会・実習指導者会、主任会議、評価委員会は実施できていない。施設設備や学生生活の支援については、ハード面など難しいところもあるが、年に2回、学校内の危険箇所点検を実施し、問題があればすぐに対応するようにしている。令和2年度はリモート授業の導入のため全館のWi-Fi環境の整備を行った。学生生活への支援については、各種奨学金について周知し、対応している。また、スクールカウンセラーを配置し（非常勤）、生徒の相談を受ける体制は整えているが、令和2年度の相談実績は0件であった。養成所の情報提供については、ホームページや進学サプリーへの参画、lineやインスタグラムなどのSNSを通し情報を発信している。進学サプリーを通しての募集要項、願書の発行部数は、82部（全発行部数の49.7%）出願率は6%（前年度は2%）であった。今後入学生確保へと結びつけられるように広報活動に努めていく。

自己点検・自己評価体制も令和2年度より学校関係者評価を取り入れた。さらに教育活動の向上、改善に努める。

VI. 入学

新型コロナウイルスの影響と自然災害により、積極的な活動は出来なかった。募集活動としては、学校訪問（のべ22校）、ガイダンス（2回/年）への参加、オープンキャンパス（1回/年）を実施した。学校訪問が計画通りには実施できなかったが、訪問する学校を大牟田市内とその周辺に絞って実施するなど対応した。また、訪問できなかった各学校には電話による入試の告知を行った。オープンキャンパスは、感染対策を取りつつ、校内の案内やリモートによる在校生との交流など工夫して実施した。また、希望者へ学校見学の対応（1名）や学校リーフレットの配布（約1万枚）を行った。結果としては、令和3年度も定員割（充足率47.1%）であった。募集活動の手応えとして、まだまだ本校のPR不足を感じたため、近郊の行政各所へのアプローチについては今後も継続していく必要がある。

受験者数の推移

2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
87名	66名	49名	37名	37名

退学者数の推移				
2016年度生	2017年度生	2018年度生	2019年度生	2020年度生
9名	8名	11名	4名	3名
		2020年度生は2021年3月末現在の数		

受験者数の減少により入学者選抜が厳しい状況である。また、入学しても学業不振による留年、進路変更による退学者がいる。その対策についても検討していく必要がある。令和3年度は社会人入試を新たに導入し、6名の受験者があった。今後も入学生確保に向けての取り組みの継続と、社会人入学生の確保に重点を置く。評価として、入学選抜についての考え方の明示や選抜方法の妥当性など教育効果の視点からの分析、検証までは行えていない。

VII. 卒業・就職・進学

福岡県准看護師試験結果は100%合格であり、令和2年度の目標は達成することができた。近郊への就職率は87.1%と、地域医療を支える人材育成としての役割は果たしていると考えられる。進学率は64.9%（昨年は74.5%）、そのうち本校への進学者は20名（全進学者の83.3%）であった。今後の課題として、卒業生の就業先での評価の把握や就業先との情報交換、調査等を実施していないため、就業先との連携を図りながら地域に定着し貢献していけるように支援して行く必要がある。

VIII. 地域社会／国際交流

地域社会については、学校周辺の清掃活動、ペットボトルのキャップ回収などボランティア活動を実施している。今後は、より学校からの情報発信や地域社会へ貢献できる手段を持つべきである。国際交流も含めて、2022年度のカリキュラム改正時に内容を追加するよう検討している。

IX. 研究

令和2年度は研究活動に取り組んだ教員はいなかった。今後も教員相互で支援し合う体制の強化及び雰囲気作りが必要である。

令和3年度 准看護科 目標

1. 新カリキュラムの構築と円滑な運営に向けた準備
2. ICTの活用とリモート教育の充実
3. 令和3年度福岡県准看護師試験全員合格